

すさき生きものの ガイドブック



須崎市

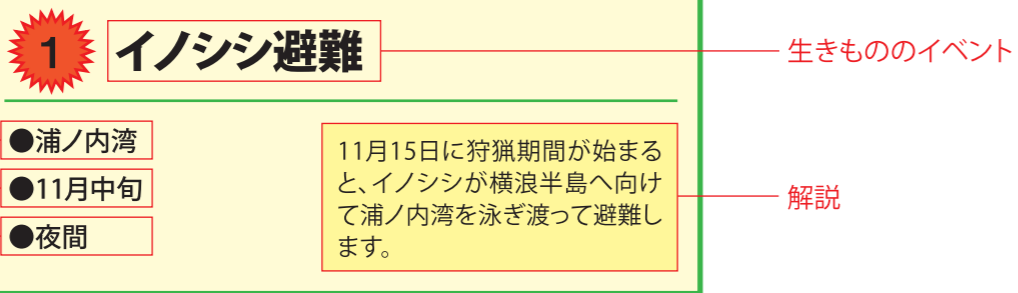


イベントの場所

図中の マーク内の数字と、以下に示した各イベントの赤字とが対応しています。それぞれのイベントの大まかな場所は、地図の周囲にあるアルファベットと数字を組み合わせて、以下の一覧に緑字で示しました。

- | | | | |
|---------------------------|---------------------|-------------------------|------------------------|
| 1: イノシシ避難.....G-2 | 5: カモの休息場.....D-4 | 9: サシバの渡り.....E-1 | 17: 消えゆくウシガエル.....D-4 |
| 2: ホエール・ウォッチング.....H-2 | 6: クマゼミの林.....D-3 | 10: カラスのお宿.....D-4 | 18: カエルの谷.....E-3 |
| 3: アニマル・ウォッチングロード.....G-2 | 7: イツツバメの団地.....D-3 | 11: カワウとサギの繁殖地.....D-4 | 19: 新荘川のアユ.....C-3 |
| 4: ミサゴの狩場.....D-4 | 8: ツバメのねぐら.....D-3 | 12: カワウのねぐら入り.....E-5 | 20: 外来魚の池.....D-3 |
| | | 13: カンムリカイツブリの湾.....F-2 | 21: 水生昆虫の識別.....C-3 |
| | | 14: 湿地の鳥たち.....F-3 | 22: ホタルの川.....C-3 |
| | | 15: カメ・ヘビ・イモリの谷.....F-3 | 23: アサギマダラの中継地.....E-4 |
| | | 16: カジカガエルの瀬.....B-3 | 24: 干潟の生きものたち.....D-3 |

情報の見方



<h3>1 イノシシ避難</h3> <ul style="list-style-type: none"> ●浦ノ内湾 ●11月中旬 ●夜間 <p>11月15日に狩猟期間が始まると、イノシシが横浪半島へ向けて浦ノ内湾を泳ぎ渡って避難します。</p>	<h3>6 クマゼミの林</h3> <ul style="list-style-type: none"> ●幸町 今清神社境内 ●7月上旬～8月中旬 ●日没～日没後1時間 <p>クマゼミは高知県にすむセミの中で一番大きい種です。幼虫は晴れた日の夕方、土の中から出て木にのぼり、脱皮します。</p>
<h3>2 ホエール・ウォッチング</h3> <ul style="list-style-type: none"> ●土佐湾 ●4月～10月 ●日中 (午前中のほうが良い) <p>クジラの他に、外洋性の海鳥にも注目。※土佐市、黒潮町などでホエール・ウォッチングを行っています。</p>	<h3>7 イワツバメの団地</h3> <ul style="list-style-type: none"> ●桐間地区 自動車道高架橋の裏側 ●4月上旬～7月中旬 ●日中 <p>イワツバメはツバメの仲間で、腰が白いのが特徴です。高架橋の裏側に集団で巣を作り、子育てをします。</p>
<h3>3 アニマル・ウォッチングロード</h3> <ul style="list-style-type: none"> ●横浪黒潮ライン (県道47号線) ●一年中 ●夜間 <p>暗くなってから横浪半島を車で通ると、タヌキやイノシシなどが道路を横切ります。轆かないように注意!</p>	<h3>8 ツバメのねぐら</h3> <ul style="list-style-type: none"> ●桐間池に広がるヨシ原 ●8月上旬～9月上旬 ●日没前30分～日没 <p>ツバメは、子育てが終わってから秋に南へ渡っていくまでの間、ヨシ原などにねぐらをとって集団ですごします。</p>
<h3>4 ミサゴの狩場</h3> <ul style="list-style-type: none"> ●長竹橋周辺～河口 ●一年中 ●日中 <p>ミサゴは魚を食べるタカの仲間です。ボラなどを見つければ、ダイナミックに水中へダイビングしてつかまえます。</p>	<h3>9 サシバの渡り</h3> <ul style="list-style-type: none"> ●虚空蔵山山頂 ●10月初旬 ●午前中 <p>サシバは、里山にすむタカです。日本で子育てをした後、大群で東南アジアに渡っていきます。</p>
<h3>5 カモの休息場</h3> <ul style="list-style-type: none"> ●新莊川橋周辺～河口 ●11月～2月 ●日中 <p>越冬のために多くのカモが日本にきます。昼間は河口などで休み、夜になると食事のために出かけます。</p>	<h3>10 カラスのお宿</h3> <ul style="list-style-type: none"> ●須崎魚市場対岸の灯台の周り ●9月上旬～11月下旬 ●日没前30分～日没後30分 <p>秋の夕方、市内で空を見上げていると、沢山のカラスが、須崎湾に向かって飛んでいく姿を見られます。</p>

<h3>11 カワウとサギの繁殖地</h3> <ul style="list-style-type: none"> ●戸島北東斜面の林 ●4月上旬～6月下旬 ●日中 <p>カワウ、コサギ、アオサギ、ゴイサギなどが集団で子育てをしています。中ノ島の港の西端から見られます。</p>	<h3>18 カエルの谷</h3> <ul style="list-style-type: none"> ●押岡地区 工場裏の谷 ●1月～9月 ●一日中 <p>カエルの産卵場所を整備しています。季節の移り変わりに合わせて、7種のカエルがやって来ます。</p>
<h3>12 カワウのねぐら入り</h3> <ul style="list-style-type: none"> ●神島南東斜面 ●11月上旬～2月下旬 ●日没前2時間～日没 <p>夕方、中ノ島大橋に立っていると、須崎湾から神島に向かって沢山のカワウが飛んでいく姿を見られます。</p>	<h3>19 新莊川のアユ</h3> <ul style="list-style-type: none"> ●長竹橋～新莊公民館前 ●3月～4月 11月～12月 ●日中 日没前後 <p>3月～4月は遡上、11月～12月は産卵する姿が見られます。川には入らずに、橋の上や堤防から観察してください。</p>
<h3>13 カンムリカイツブリの湾</h3> <ul style="list-style-type: none"> ●浦ノ内湾最奥部 ●11月上旬～2月下旬 ●日中 <p>カンムリカイツブリは、冬に大陸から渡ってくる冬鳥です。カイツブリ類の中では大柄で、青い海に白い首が目立ちます。</p>	<h3>20 外来魚の池</h3> <ul style="list-style-type: none"> ●糺池 ●4月～10月 ●日中 <p>ブラックバス、ブルーギル、タイリクバラタナゴ、カダヤシが確認されています。捕まえても他の場所に放さないように!</p>
<h3>14 湿地の鳥たち</h3> <ul style="list-style-type: none"> ●浦ノ内東分 木工所前の休耕田 ●5月上旬～8月下旬 ●日中 <p>市内では数少ない湿地で、多くの野鳥が集まります。日中はオオヨシキリ、夕方はヒクイナの声が聞こえます。</p>	<h3>21 水生昆虫の識別</h3> <ul style="list-style-type: none"> ●上分小中学校前の新莊川 ●2月中旬～3月下旬 ●日中 <p>この時期、水生昆虫の多くが終齢幼虫になり、種ごとの特徴が判るようになりますので、識別がしやすくなります。</p>
<h3>15 カメ・ヘビ・イモリの谷</h3> <ul style="list-style-type: none"> ●浦ノ内東分 工場前の谷 ●一年中 ●日中 <p>自然が多く残る谷が広がり、何種類もの爬虫類、両生類を見られます。観察する時は、住人の方にあいさつを忘れずに。</p>	<h3>22 ホタルの川</h3> <ul style="list-style-type: none"> ●坂ノ川川の波介橋より下流 ●6月 ●夜間 <p>あまり多くはありませんが、ゲンジボタルが飛んでいます。周辺は街灯が無く真っ暗なので、懐中電灯を忘れずに。</p>
<h3>16 カジカガエルの瀬</h3> <ul style="list-style-type: none"> ●依包川と新莊川の合流点 ●6月上旬～8月中旬 ●日没後 <p>清流に暮らすカジカガエル。新莊川では広い範囲で声を聴けますが、この場所は特に多いように感じます。</p>	<h3>23 アサギマダラの中継地</h3> <ul style="list-style-type: none"> ●中ノ島にいたる道沿い ●10月中旬～11月上旬 ●日中 <p>アサギマダラは、長距離の渡りをする蝶です。この時期、白い花を咲かすヒヨドリバナの蜜を吸いにやって来ます。</p>
<h3>17 消えゆくウシガエル</h3> <ul style="list-style-type: none"> ●新莊地区 堂面の池 ●5月上旬～8月中旬 ●日没後 <p>アメリカから連れてこられたウシガエル。他のカエルを食べてしまうので、捕まえても他の場所に放してはいけません。</p>	<h3>24 干潟の生きものたち</h3> <ul style="list-style-type: none"> ●桜川河口～須崎湾最奥部 ●4月中旬～10月上旬 ●干潮前2時間～干潮 <p>須崎市の干潟では、高知県で絶滅が心配されているトビハゼやシオマネキなどの生きものが沢山見つかっています。</p>

はじめに

須崎市は高知県のほぼ中央に位置し、東西25km、南北13km、総面積は135.46km²です。東に土佐市、西に津野町、北は佐川町、南よりに中土佐町と、それぞれ隣接しています。地形は山岳丘陵地帯が多く、平野が少ないですが、新莊川、桜川、奥浦川などの流域には肥沃な農耕地が開けています。中心市街地は須崎湾口周辺に位置し、湾外には戸島、神島、中ノ島が点在しています。東部には横浪三里と呼ばれる風光明媚な浦ノ内湾、横浪半島があり、その南岸はリアス式海岸で絶壁洗う太平洋が広がっています。

冬季には北西の季節風が強いのですが、降雪はきわめて少ないです。一方、雨量は非常に多く、高温多湿で作物の育成に適しています。

このようにさまざまな環境があるために、須崎市にはいろいろな生きものがくらしています。このガイドブックでは、多様な須崎市の生きものたちについて紹介します。ガイドブックを持って、須崎の生きものたちを探しに行ってみませんか？

※この冊子は、平成23年度高知県豊かな環境づくり総合支援事業費補助金を受けて作成しました。

もくじ

昆虫類	6
水生昆虫類	7
魚類	8
両生類	13
爬虫類	17
鳥類	21
哺乳類	27
甲殻類	33
須崎魚市場の魚貝類	38
須崎の生きものをもっと知りたいときは	49
種名索引	50

※掲載している写真の著作権は、撮影者に帰属します。

昆虫類 (こんちゅうるい)

ゲンジボタル (ホタル科)

昔から人に親しまれている昆虫です。

オスもメスも光りますが、オスの方が強い光を出して、メスを誘います。交尾がすむと、メスは川岸に生えている苔の中に卵を産みつけます。一ヶ月ほどしてふ化した幼虫は、川の中に入ります。

幼虫はたくさんのカワニナを食べて大きくなります。水中でそのまま冬を越え、春になると水から上がってきて川岸の土の中にもぐってサナギになります。成虫になると、寿命である約2週間、何も食わずに水だけを飲んで過ごします。

雨や風が強かったり、肌寒い夜には、水辺の草かげなどでじっとしているため、あまり姿は見られません。



撮影：谷地森秀二

- 体長
12~18 mm
- すんでいる環境
川の周辺
- 見やすい時期
5月~6月
- 見やすい時間帯
日没後、2時間くらいまで
- 須崎で見やすい場所
横浪半島、新庄川、坂ノ川川、依包川

アサギマダラ (マダラチョウ科)

幼虫はガガイモ科のキジョランやカモメツルなど食べますが、これらの植物には毒があります。アサギマダラはこれらの毒を体にためて、他の生きものに食べられないように、身を守っていると考えられています。

この蝶は、鳥のように長い距離を渡っていくことで有名です。秋になると、日本列島に沿って、南へ移動していきます。和歌山県で捕まえられ印をつけられたアサギマダラが、高知県をとおり、その後、台湾で確認されたことがあります。

アサギマダラの翅には、鱗粉がありません。そのため、油性マジックを使えば、翅に印をつけることができます。アサギマダラを見つけたら、翅に印が書かれていないかよく観察してみてください。



撮影：谷地森秀二

- 前翅長 (翅を広げた幅)
5~6 cm
- すんでいる環境
海の近くから山の上までの林や草原
- 見やすい時期
5月~10月
- 見やすい時間帯
日中
- 須崎で見やすい場所
横浪半島、野見半島、蟠蛇森

水生昆虫類(すいせいこんちゅうるい)

ヘビトンボ(ヘビトンボ科)

写真は幼虫です。川の中の瀬にある大きめの石の下などにいます。高知では「カワムカデ」と呼ばれていますが、脚は6本で昆虫だということがわかります。腹部には節ごとに突起がありますが脚ではありません。丈夫で大きいアゴを持っているため、かまれるとかなり痛いですが、毒はありません。

他の水生昆虫などを食べ、1~3年で岸辺に上陸して穴を掘りサナギとなり、初夏に羽化します。ヘビトンボの幼虫が多くいる川は、きれいな水が流れていてエサとなる小型の水生昆虫も多い豊かな川だと言えます。

新莊川では、河口域を除くほぼ全域にいます。



撮影：石川妙子

- 体長 60 mm前後(終齢幼虫)
- すんでいる環境 川の中流から上流
- 見やすい時期 一年中
- 見やすい時間帯 一日中
- 須崎で見やすい場所 新莊川、依包川、桜川上流

ムカシトンボ(ムカシトンボ科)

ムカシトンボは中生代に栄えた古代トンボの化石に近い形をしていて、生きた化石として有名です。ヒマラヤに1種、日本に1種しかいません。

まわりに森があり、川底が安定していて水温の低い清流にすんでいます。

幼虫(ヤゴ)の体は固く、毛は生えていません。つかまえると「キュッ、キュッ」と音を出します。お腹の横に発音用のヤスリがあり、後足でこすって音を出すのです。流れが速い溪流の石の下にくっついて、カゲロウやトビケラの幼虫を食べています。

幼虫の期間は7年前後ととても長いです。幼虫は羽化する一月くらい前になると陸に上がり、湿った落ち葉や石の下で生活します。



撮影：石川妙子

- 体長 20~25 mm
- すんでいる環境 森林に囲まれ、川岸にフキ、ワサビなどやわらかい茎の植物が生えている水温の低い急流域
- 見やすい時期 一年中
- 見やすい時間帯 一日中
- 須崎で見やすい場所 新莊川、依包川

トビハゼ(ハゼ科)

干潟に生息し、潮が引くと泥の上を胸びれで這いまわり、敵に狙われると連続ジャンプで素早く逃げます。体の色は灰褐色で、小さな白点と大きな黒点の斑模様があります。陸上で行動することができ、皮膚が乾燥してくると湿った場所に行き、体を湿らせます。小さなカニやヨコエビ、ゴカイなどを食べます。

環境省は準絶滅危惧に、高知県は絶滅危惧Ⅱ類に指定しています。また、高知県希少野生動植物なので、高知県では許可なしに捕まえることができません。県内の生息地は、浦戸湾、仁淀川河口域、浦ノ内湾、須崎湾、渡川水系、下ノ加江川河口域などです。須崎市の桜川と押岡川が合流する場所にある干潟では、4月から10月にかけて観察でき、特に7月頃多くのトビハゼを見ることができます。



撮影：谷地森秀二

- 体長
10 cm
- すんでいる環境
干潟
- 見やすい時期
4月～10月
- 見やすい時間帯
干潮前2時間～干潮
- 須崎で見やすい場所
桜川河口

ミミズハゼ(ハゼ科)

高知県では「あたまひしゃげ」と呼ばれることがあります。屋久島から北の日本各地にすんでいます。

川の下流から河口域、淡水の影響のある海岸にすんでいて、石の下や砂利のすきまに入り込んでいます。

体は細長く、色は灰色や茶色で、背中に小さな白い点がたくさんあります。

ハゼの仲間、腹ビレが吸盤状になっていて、ゴカイや小さなエビ類などを食べます。

ミミズハゼの仲間はたくさんいると言われていて、まだ名前がついていない種類が多くいます。



撮影：町田吉彦

- 体長
8 cm
- すんでいる環境
川の下流や河口域
- 見やすい時期
3月～12月
- 見やすい時間帯
一日中
- 須崎で見やすい場所
新荘川

ドンコ (ドンコ科)

高知県では「ごうそ・ちちこ」と呼ばれることがあります。愛知県・新潟県から西の本州、四国、九州に生息しています。

おもに川の中流から下流の、流れがゆるくて隠れ場所の多いところを好みます。体はずんぐりしていて、背ビレは2つあり、その付け根に黒の斑模様があります。

夜行性で、昼間は水中の草や木の根もと、岩陰などでじっとしています。動物食で、生きたエサしか食べません。

産卵期になると、オスはふ化するまで卵を守る習性があります。



撮影：町田吉彦

- 体長
30 cm
- すんでいる環境
川の上流から下流
- 見やすい時期
4月～10月
- 見やすい時間帯
夜間
- 須崎で見やすい場所
新莊川

ボウスハゼ (ハゼ科)

高知県では「ぼうずごり・みみなし・ねこはぜ」と呼ばれることがあります。関東地方の太平洋側から琉球列島にかけて生息し、日本海側にはいません。

子どもは海で生活し、親は川の上流から中流にすんでいます。

頭が丸みを帯びているのが特徴です。ボウスハゼの吸盤は強力で、吸着できる面があれば水槽からでもはい出してしまいます。

高知県では準絶滅危惧種に指定されていますが、多くの川で見ることができます。アユと同じで、川底の石についた藻類を食べます。



撮影：町田吉彦

- 体長
12 cm
- すんでいる環境
川の上流から下流
- 見やすい時期
4月～10月
- 見やすい時間帯
一日中
- 須崎で見やすい場所
新莊川

チチブ (ハゼ科)

高知県では「ごり」と呼ばれることがあります。

青森県から九州まで広く生息しています。川の下流や河口の小石が多い場所に好んで生活します。

隠れ場所が多いところを好み、空き缶やパイプなどの中に潜んでいることもあります。

隠れ場所を占有する性質があり、5月から9月の産卵期になると、オスは石の下にくぼみや空き缶などを産卵室にして求愛行動をします。メスが近づくと巣に誘い、天井に産卵させます。1匹のオスが複数のメスに産卵させることもあります。産卵・受精後はオスが巣に残り、心化するまで卵を守ります。



撮影：町田吉彦

- 体長
8 cm
- すんでいる環境
川の上流から下流
- 見やすい時期
4月～10月
- 見やすい時間帯
一日中
- 須崎で見やすい場所
新荘川

又マチチブ (ハゼ科)

この魚も高知県では「ごり」と呼ばれることがあります。高知県ではチチブより多いようです。

チチブとよく似ていますが、第1背ビレの中間付近(ヒレの高さの半分ぐらい)に暗赤色の線が2～3本あることで区別することができます。

北海道南部、本州、四国、九州に生息し、川の中流から河口域、ため池などで生活しています。

雑食性で、石に付着した藻類もよく食べます。オスは石の下などに巣を作り、その周囲を縄張りとし、メスが近づくと巣に誘い、天井に産卵させます。オスは巣に残り、心化するまで卵を守ります。



撮影：町田吉彦

- 体長
15 cm
- すんでいる環境
川の上流から下流
- 見やすい時期
4月～10月
- 見やすい時間帯
一日中
- 須崎で見やすい場所
新荘川

アカザ（アカザ科）

高知県では「おこぜ・はりもつ・ごす」と呼ばれることがあります。宮城県と秋田県から南の本州、四国、九州に広くすんでいます。

おもに水のきれいな川の上流から中流にすんでいます。新莊川などの水がきれいな高知県の川では下流でも見つかります。

おもに水生昆虫を食べます。体はオレンジ色でうろこがなく、ヌルヌルとしているのが特徴です。胸ビレと背ビレにトゲがあり、刺さるととても痛いのです。

夜になると活発に動きますが、昼間は石の下に隠れています。

高知県では絶滅危惧ⅠB類に指定されており、減少が心配されています。



撮影：町田吉彦

- 体長 15 cm
- すんでいる環境 川の上流から下流
- 見やすい時期 4月～10月
- 見やすい時間帯 一日中
- 須崎で見やすい場所 新莊川

アユ（アユ科）

北海道の西部以南の日本各地にすんでいて、高知県では「あい」と呼ばれることが多いです。おもに川の中流で生活していますが、秋になると川を下り河口で産卵します。ふ化した子どもはすぐ海に下り、春まで海で生活します。

まれに、全長30cmを超える大物も見られます。成長すると「なわばり」を持つようになりますが、餌が少ないときや小さい時はなわばりを持たずに群れになります。普段は岩についた藻類を食べ、岩に「はみあと」が残ります。見た目の美しさ、独特の香り、味の良さと三拍子そろった魚で、古くから日本人に親しまれており、釣り人からは「清流の女王」と呼ばれています。



撮影：町田吉彦

- 体長 10～30 cm
- すんでいる環境 川の上流から下流
- 見やすい時期 3月～12月
- 見やすい時間帯 一日中
- 須崎で見やすい場所 新莊川

タカハヤ（コイ科）

静岡県と富山県から西の本州、四国、九州にすんでいます。高知県では「もつご」と呼ばれています。ただし、モツゴという別の淡水魚がいるので、注意が必要です。

川の上流から中流の淵、山あいの池や沼などにすんでいます。雑食性で昆虫や藻類を食べます。

体長は10cmくらいで、体の表面がヌルヌルとしているのが特徴です。アブラハヤに似ていますが、アブラハヤの体には黒い線があるため見分けることができます。



撮影：町田吉彦

- 体長
10 cm
- すんでいる環境
川の上流から中流
- 見やすい時期
4月～10月
- 見やすい時間帯
一日中
- 須崎で見やすい場所
新荘川

カワムツ（コイ科）

高知県では「はえ・はや」と呼ばれることがあります。静岡県から西の本州、四国、九州に生息し、川の上流から下流、池や沼にすんでいます。

雑食性で、特に昆虫を多く食べます。シリビシが大きくオイカワに似ていますが、体に黒い線があるので見分けることができます。

繁殖期にはオスの腹が赤くなり、顔に追星というポツポツができます。このようなオスを高知県では「赤ばや」と呼ぶことがあります。高知県の川には昔からいて、よく見ることができる魚です。外来種であるオイカワよりも流れがゆるい場所を好みます。



撮影：町田吉彦

- 体長
15 cm
- すんでいる環境
川の上流から下流
- 見やすい時期
4月～10月
- 見やすい時間帯
一日中
- 須崎で見やすい場所
新荘川

両生類(りょうせいりい)

ヤマアカガエル(アカガエル科)

いつもは林の中でくらしていますが、冬の産卵時期になると、水が溜まっている田んぼや湿地などに集まってきます。水辺に集まってきたオスたちは、夜になると合唱を始めます。オスの声に誘われたメスがやってくると、オスたちはメスに飛びつきます。一匹のメスに何匹ものオスが飛びつくこともありますが、メスはなかなか卵を産んでくれません。数匹のオスがガエルたちはしばらくすると、1匹、また1匹と離れていき、最後に残ったオスだけが一緒に卵を産むことができます。

産み出された卵のかたまりは水を吸って直径15~25cmくらいに膨らみます。一つのかたまりには、1,500~3,000個の卵が入っています。卵を産み終わると、水辺から離れて、また林に帰って来ます。



撮影：谷地森秀二

- 体長
4~8 cm
- すんでいる環境
海の近くから、山の上までの水たまりや林
- 見やすい時期
12月~2月(繁殖期)
- 見やすい時間帯
夜間
- 須崎で見やすい場所
横浪半島、押岡地区

ニホンヒキガエル(ヒキガエル科)

須崎市や高知市などの低いところの水たまりでは、1月~2月に卵を産み始めます。カエルたちは卵を産むために決まった水たまりに集まります。水辺にやってきたオスたちは、写真のように体を起こして、後からくるメスを待ちます。メスを見つけると太い腕でぎゅっと抱きしめますが、時々メスと間違えてオスを抱きしめてしまうときもあります。抱きつかれたオスは「クウッ、クウッ」と鳴いて、「僕はメスじゃないよう！オスだよ！」と知らせます。抱きついたほうのオスは、その声を聞くと「まちがった！」と、すぐに離れます。産まれた卵のかたまりは紐のように長く、1,500~8,000個の卵が入っています。

卵を産み終わったカエルたちは、水辺から離れて、まわりの林に帰って来ます。



撮影：谷地森秀二

- 体長
7~17 cm
- すんでいる環境
海の近くから、山の上までの水たまりや林
- 見やすい時期
1月~2月(繁殖期)
- 見やすい時間帯
夜間
- 須崎で見やすい場所
横浪半島、押岡地区

両生類(りょうせいりい)

シュレーゲルアオガエル(アオガエル科)

田んぼに水が入ると最初にやってくるのがシュレーゲルアオガエルです。

いつもは林の中でくらし、卵を産む時だけ田んぼのような泥のある水辺に集まってきます。4月の雨の夜に、押岡地区の県道23号線に行くとたくさんのシュレーゲルアオガエルが道路に出てきています。

田んぼに到着すると、オスはカスタンネットのようなすんだ声で「コロロ、コロロ」とメスを呼ぶ合唱を始めます。ペアになったオスとメスは、力を合わせて畦に穴を掘って、その中にソフトクリームのような白い泡に包まれた卵を産みます。オスとメスは、その卵を泥の中に丁寧に埋めてしまいます。卵はおよそ10日間でオタマジャクシになり、5月の終わり頃に、小さなカエルになります。



撮影：谷地森秀二

- 体長 3～5 cm
- すんでいる環境 海の近くから、山の上までの水たまりや林
- 見やすい時期 3月～5月(繁殖期)
- 見やすい時間帯 日没～翌朝にかけて
- 須崎で見やすい場所 市内全域の水田

ニホンアマガエル(アマガエル科)

あちこちで田植えが始まるころ、田んぼで一番多く聞こえる鳴き声がこのカエルです。雨が降りそうになると鳴き出すので「雨蛙」といいます。夏の夜には、自動販売機の近くで姿をよく見かけます。明りに集まる虫を狙っているのです。

シュレーゲルアオガエルとよく似ていますが、ニホンアマガエルには目の周りに黒いアイラインがあるので、簡単に見分けられます。

体の色は、葉っぱの上にいるときは黄緑色、暗い所や石の上などにいるときは灰色に変わり、大きな黒い模様も付きます。冬眠から覚めたばかりのときは灰色です。ときどき黄色の色素をもっていない水色の個体や、黒い色素をもっていない黄色の個体が見つかります。



撮影：谷地森秀二

- 体長 2～4 cm
- すんでいる環境 海の近くから、山の上までの水たまりや林、草原
- 見やすい時期 3月～10月
- 見やすい時間帯 一日中
- 須崎で見やすい場所 市内全域の水田

両生類(りょうせいるい)

トノサマガエル(アカガエル科)

オスとメスでは体の色が違って、オスは緑色、メスは灰色で、両方とも黒っぽい丸い模様があります。冬眠しているときは、体が赤っぽくなります。

オタマジャクシからカエルになっても、水辺から離れずに暮らします。田んぼの畦を歩いていると、足元から飛び出すのがこのカエルです。とてもジャンプ力が強いです。おどろくと水の中に飛び込みますが、すぐに同じところに戻ってきます。高知県では、準絶滅危惧種に指定されています。畦がコンクリートで固められて身を隠せなくなったことや、早場米が普及し、カエルになる前に田んぼから水が無くなることなどで、トノサマガエルがすめる田んぼが減っています。須崎市ではまた姿を見られるところがあちこちにあります。



撮影：谷地森秀二

- 体長
4～9 cm
- すんでいる環境
海の近くから、山の上までの田んぼや水たまり
- 見やすい時期
4月～10月
- 見やすい時間帯
一日中
- 須崎で見やすい場所
標高が低い場所にある多くの水田

ウシガエル(アカガエル科)

高知で見ると一番大きなカエルで、ジャンプ力が強く、りっぱな太ももをしています。夜になると大きな「ブオー！ブオー！」という声で鳴きます。もともとは日本にいなかったカエルですが、このりっぱな太ももを食べるために、1918年(大正7年)に北アメリカからつれてこられました。

体が大きいため、いろいろなものを食べます。昆虫やクモ、鳥のヒナやヘビ、ネズミ、日本のカエルも食べてしまいます。そのため、ウシガエルが多い水辺は、日本にもとからすんでいた生きものたちの姿があまり見られなくなってしまっています。環境省ではウシガエルを、「捕まえて移すこと」、「飼育すること」、「売ること」をやってはいけない特定外来生物に指定しています。



撮影：山崎浩司

- 体長
13～20 cm
- すんでいる環境
池や沼などの冬でも深い水たまり
- 見やすい時期
3月～10月
- 見やすい時間帯
一日中
- 須崎で見やすい場所
堂面の池(新荘地区)、桐間池

両生類(りょうせいりい)

カジカガエル(アオガエル科)

流れのある川にすむカエルですが、卵を産む時期以外は、まわりの林で暮らします。

夏の夕方、まわりが暗くなってくると、オスは川の中の石の上に1匹ずつすわって、「フィフィフィ・・・」とカエルとは思えないきれいな声で鳴きます。この鳴声に誘われたメスが近づいてくると、オスはメスの背中にしがみつきます。ペアになった2匹は川底の石の下にもぐりこみ、産卵します。

オタマジャクシは、吸盤のような形をした唇を川床の岩に張り付けて、藻を食べて成長します。この藻は、太陽の光が川底まで届く透明な水でないと生えませんが、カジカガエルの鳴声が聞こえる場所は、水が透明なきれいな川であるといえます。高知県では、ほとんどの川にカジカガエルがいます。



撮影：谷地森秀二

- 体長 4～8cm
- すんでいる環境 流れのある川・そのまわりの林
- 見やすい時期 5月～7月(繁殖期)
- 見やすい時間帯 夜間
- 須崎で見やすい場所 新莊川(ほぼ全域)

ニホンイモリ(イモリ科)

体の色は、背中側が真っ黒、お腹は真っ赤です。真っ赤なお腹には黒い斑紋がありますが、その形は個体によって違います。春になると繁殖期を迎え、オスは青紫色の婚姻色が尾を中心に表れ、とても美しくなります。

昔から人が暮らす近くの水辺に住んでいて、「井戸を守る」と言われていることから「井守」と名づけられたそうです。ほとんど水から出ることはありませんが、雨の夜にはアスファルトの上などを歩いている姿を見ることがあります。食べものはヤゴやボウフラなどの水生昆虫やミミズなどをよく食べます。とても食欲旺盛で動物質のものなら何でも食べます。とくにオタマジャクシにとっては恐ろしい敵です。カエルの多いところにはニホンイモリもたくさん見つかります。



撮影：谷地森秀二

- 体長 7～13cm
- すんでいる環境 池、沼、田んぼや用水路
- 見やすい時期 3月～11月
- 見やすい時間帯 一日中
- 須崎で見やすい場所 市内全域の水田

爬虫類（はちゅうるい）

シマヘビ（ナミヘビ科）

北海道、本州、四国、九州とそのまわりの島にいます。田んぼや草原にすんでおり、林の中でも見かけます。

体の色は、黄土色の地に、はっきりとした茶褐色の縦じまが4本あり、とても自立ちます。子どものころは赤茶色の横じまもあるため、まるで別種のようにです。高知県には、全身真っ黒のシマヘビもいます。黒いシマヘビは「カラスヘビ」と呼ばれています。

食べものは、カエルやトカゲ、哺乳類、鳥類などで、時にはヘビも食べます。他のヘビの仲間に比べると、爬虫類をよく食べます。

捕まえようとすると、草むらの中に急いで逃げ込みますが、尻尾を捕まると、振り返って噛みついてきます。



撮影：谷地森秀二

- 体長 80～180 cm
- すんでいる環境 海の近くから、山の上までの林や草原
- 見やすい時期 4月～10月
- 見やすい時間帯 午前中
- 須崎で見やすい場所 市内全域の水田

ヤマカガシ（ナミヘビ科）

水辺が好きなようで、田んぼでよく見かけますが、山の高いところでも見つかります。体の色は赤、黄、黒のまだら模様で、子どものころはとても自立つ黄色い首輪模様があります。高知県には全身が真っ黒のヤマカガシもいて、「カラスヘビ」と呼ばれています。

食べものはカエルやオタマジャクシ、魚などです。特にカエルが好きなようで、田んぼにカエルが卵を産むために集まってくると、ヤマカガシも同じ田んぼの畦道でよく見かけるようになります。その時期には田んぼの近くの道路で、よく車にひかれています。

ヤマカガシは毒をもっています。ただし、ほとんど人にはかみつきません。また、マムシと違って毒を出す牙が奥歯になっているために、かまれても毒が体に入ることはまれです。



撮影：谷地森秀二

- 体長 70～150 cm
- すんでいる環境 海の近くから、山の上までの水辺
- 見やすい時期 4月～10月
- 見やすい時間帯 午前中
- 須崎で見やすい場所 市内全域の水田

爬虫類 (はちゅうるい)

ニホンマムシ (クサリヘビ科)

有名な毒蛇で高知県では「ハメ」と呼ばれます。毒牙は口の中の前の方にあり、噛みついた相手の体に毒が入りやすいようになっています。体の長さの割には太く、他のヘビに比べて、あごががっしりしています。

よく見かける場所は水辺ややぶの中など、比較的涼しいところです。夜行性ですが、太陽の光で体を温めるために、日当たりのよいところに出てきています。食べものは哺乳類や鳥類、両生類で、爬虫類も食べます。

お母さんヘビは体の中に殻がついた卵を抱えたまま生活し、子ヘビはお母さんヘビの体の中で卵からかえります。そのため、マムシは哺乳類のように子どもを産むように見えますが、栄養は鳥や他の爬虫類のように卵の中の卵黄を吸収して育ちます。



撮影：谷地森秀二

- 体長
40～60 cm
- すんでいる環境
海の近くから、山の上までの林内
- 見やすい時期
4月～10月
- 見やすい時間帯
午前中
- 須崎で見やすい場所
市内全域の水田

ニホンカナヘビ (カナヘビ科)

名前にヘビとついていますが、トカゲの仲間です。北海道、本州、四国、九州およびその周辺の島にいます。

地面や石垣の上でよく姿を見かけますが、又の高い草の上や木にもよくあがります。昼間に活動し、午前中は日当たりのよいところで日なたぼっこをして体温をあげます。

体につやがないことや、尾が体長の半分以上を占めることなどが特徴で、ニホントカゲとの見分けがつきやすくなっています。

食べものは昆虫やクモなどです。道路に走り出てきて、獲物を捕まえる姿をよく見かけます。一方で、タヌキやイタチ、鳥類、ヘビ類などに食べられます。冬になると、石の下や倒木の下などに潜り込んで冬眠します。



撮影：谷地森秀二

- 体長
16～27 cm
- すんでいる環境
海の近くから、山の上までの草原や林縁部
- 見やすい時期
4月～10月
- 見やすい時間帯
午前中
- 須崎で見やすい場所
市内全域の水田

爬虫類（はちゅうるい）

ニホントカゲ（トカゲ科）

ニホンカナヘビと違って、体にはつやがありません。大人と子どもではっきりと体の色が違います。子どもの頃は体の色が黒や暗褐色で5本の黄色い縦じまがあり、尾は青くなっています。大人になると全身褐色になり、側面に太い縦じまが入ります。繁殖期のオスは頭の横から喉、腹の部分が赤みを帯びます。

草原や山地にある日当たりの良い斜面などにすみます。ニホンカナヘビほど、木にはのびりません。冬になると地中や石垣のすきまなどで冬眠します。

食べものは、昆虫類、クモ、ミミズなどです。天敵は、ネコ、イタチ、アナグマ、シロマダラなどです。敵に襲われると、尾を自分で切って逃げます。しばらくすると、尾はまた生えてきます。



撮影：谷地森秀二

- 体長
15～27 cm
- すんでいる環境
海の近くから、山の上までの草原や林縁部
- 見やすい時期
4月～10月
- 見やすい時間帯
午前中
- 須崎で見やすい場所
市内全域

ニホンヤモリ（ヤモリ科）

体の色は灰色や褐色ですが、環境や体調に応じて体の色をある程度変化させることができます。体は平たくなっていて、壁の隙間などの狭い場所にも潜りこむことができます。全身が細かい鱗に覆われ、背面にはやや大型の鱗があります。

おもに民家やその周辺にすみます。自然の林や原生林などではほとんど見つかりません。夜行性で、昼間は壁の隙間などで休みます。

暗くなると獲物を求めて灯りのまわりにやってきて、蛾や蚊などに素早く走り寄って捕まえます。他の昆虫やクモ、ワラジムシなども食べます。一方、ネコやタヌキの他、アオバズク、シマヘビなどに食べられます。敵に襲われると壁の隙間などへ逃げ込み、捕まりそうになると尾を切って逃げます。



撮影：谷地森秀二

- 体長
10～14 cm
- すんでいる環境
海の近くから、山の上までの人家周辺
- 見やすい時期
4月～10月
- 見やすい時間帯
夜間
- 須崎で見やすい場所
市内全域

ニホンイシガメ（イシガメ科）

日本だけにいるカメで、高知県ではよく見られます。かつてはニホンイシガメの子どもを銭亀と呼んでいましたが、最近銭亀と呼ばれているカメは、クサガメの子どもです。

河川、湖沼、池、水田などにすみ、やや流れがある場所を好みます。寒さに比較的強く、水温が3～5℃でも活動していることがあります。冬になると水中の穴や石の下、落ち葉の中などで冬眠します。

雑食性で、魚、カエルやその卵、オタマジャクシ、昆虫、カニやエビ、ミミズなどを食べます。他のカメの卵を食べることもあります。産卵期は夏で、メスは長い距離を移動することがあります。産卵場所につくと、深さ10cm程度の穴を掘り、1回に1～12個の卵を数回に分けて産みます。



撮影：谷地森秀二

- 体長 10～14 cm
- すんでいる環境 河川、湖沼、水田など
- 見やすい時期 4月～10月
- 見やすい時間帯 午前中
- 須崎で見やすい場所 横浪半島、新庄川、多ノ郷地区

ミシシippアカミミガメ（又マガメ科）

ペットとして、よく売られているカメです。顔の両側に自立つ赤い模様があります。アメリカから連れてきた外来生物で、逃げ出したり、捨てられたりしたミドリガメが野生化して全国で見られるようになりました。高知県でもほとんどの水辺で見られるようになり、もともといたイシガメやクサガメを追いやっているようです。

流れが緩やかで水深がある大きな河川、湖、池や沼などにすみ、水生植物が多い環境を好みます。水の汚れに強く、他の種類のカメがすめないほどの環境でも生きていけます。一年中活動していて、ほとんど冬眠はしないようです。

雑食性で、植物の葉、水草、藻類、魚、カエル、オタマジャクシ、昆虫、クモ、甲殻類、貝類、ミミズ、鳥や動物の死骸などを食べます。



撮影：谷地森秀二

- 体長 15～28 cm
- すんでいる環境 人家周辺
- 見やすい時期 4月～10月
- 見やすい時間帯 日中
- 須崎で見やすい場所 横浪半島、多ノ郷地区

鳥類 (ちょうるい)

カワセミ (カワセミ科)



撮影：山崎浩司

須崎市の「市の鳥」になっています。清流の宝石とよばれる美しい姿をしています。決まった場所で小魚を探し、見つけると一気に水中に飛び込みます。たんぼでオタマジャクシをとることもあります。高知県では、準絶滅危惧種に指定されています。

○体長：17 cm

○すんでいる環境：水辺

○見やすい時期：一年中

○見やすい時間帯：日中

○須崎で見やすい場所：市内全域の水辺

キセキレイ (セキレイ科)



撮影：山崎浩司

お腹が黄色くスマートな鳥で、水辺でよく見かけます。「チチッ！チチッ！」と鳴きながら飛びます。地面にいるときは尾を上下に振りながら、走ります。ガガンボやトンボを捕まえると、丁寧に翅をむしって食べます。

○体長：20 cm

○すんでいる環境：水辺

○見やすい時期：一年中

○見やすい時間帯：日中

○須崎で見やすい場所：市内全域の水辺

鳥類 (ちょうるい)

スズメ (ハタオリドリ科)^か



撮影：山崎浩司

おなじみの鳥ですが、人がいない山の中ではほとんど見られません。のどの下と頬にある黒い模様がはっきりしているのが、成鳥の印です。秋になるとその年生まれの子スズメたちは大群をつくり、移動します。

○体長：14.5 cm

○すんでいる環境：住宅地・農耕地

○見やすい時期：一年中

○見やすい時間帯：日中

○須崎で見やすい場所：市内全域

ムクドリ (ムクドリ科)^か



撮影：山崎浩司

地面を歩きながら食べものを探したり、群れで柿の木にやってきたりします。木の洞に巣を作りますが、人家の戸袋なども利用します。夏の間は家族で暮らし、秋から冬にかけて大群となってねぐらに入ります。ねぐらに入る前には、電線にずらりと並んだ姿が見られます。

○体長：24 cm

○すんでいる環境：住宅地・農耕地

○見やすい時期：一年中

○見やすい時間帯：日中

○須崎で見やすい場所：市内全域

鳥類 (ちょうるい)

ヒヨドリ (ヒヨドリ科)



撮影：山崎浩司

「ピーヨ! ピーヨ!」と甲高く鳴く鳥です。よく見ると胸の模様などはとても美しいです。庭に実がなる植物があると、よくやって来て食べます。山の高い所や北の地方にいるヒヨドリは、冬になると暖かい地方へ移動します。

○体長：27.5 cm

○すんでいる環境：住宅地・農耕地

○見やすい時期：一年中

○見やすい時間帯：日中

○須崎で見やすい場所：市内全域

ヤマガラ (シジュウカラ科)



撮影：山崎浩司

高知県の山林でよく見かけます。オレンジ色の体に、のどの黒い模様が目立ちます。巣箱をかけると、コケや動物の毛を集めて巣を作ります。太く短いノミのような形のくちばしをしているため、ドングリなどの堅い木の実も割って食べることができます。

○体長：14 cm

○すんでいる環境：森林

○見やすい時期：一年中

○見やすい時間帯：日中

○須崎で見やすい場所：市内全域の山林

鳥類 (ちょうるい)

ジョウビタキ (ツグミ科)



撮影：山崎浩司

高知県の冬鳥の代表といってもいいくらい、よく見かける鳥です。10月中旬 旬頃より姿を現します。オレンジ色の体と、翼にある大きな白斑が特徴です。電線などにとまると、尾羽を小刻みに震わせます。その動きは、尾羽の付け根にバネが入っているようです。

○体長：14 cm

○すんでいる環境：森林・緑の多い住宅地

○見やすい時期：10月～3月

○見やすい時間帯：日中

○須崎で見やすい場所：市内全域

ミサゴ (タカ科)



撮影：山崎浩司

魚を主食とする猛禽類で、水辺で見られます。魚を見つけるとホバリング飛行を行った後に急降下し、水面近くで両足を伸ばして鋭い爪で捕らえます。新荘川の長竹橋の欄干にとまっている姿をよく見ます。高知県では、絶滅危惧ⅠB類に指定されています。

○体長：54～64 cm

○すんでいる環境：水辺

○見やすい時期：一年中

○見やすい時間帯：日中

○須崎で見やすい場所：浦ノ内湾、新荘川、桐間池、糺池など

鳥類 (ちょうりい)

アオサギ (サギ科)



撮影：山崎浩司

日本のサギの仲間では一番大きい種です。川や水田などで魚、カエル、カニ、昆虫などを捕まえて食べますが、たまに小鳥やネズミなどを食べることもあります。目の上の、黒い帯のような模様がはっきりしているのが成鳥です。

○体長：93 cm

○すんでいる環境：水辺

○見やすい時期：一年中

○見やすい時間帯：日中

○須崎で見やすい場所：市内全域の水辺

カワウ (ウ科)



撮影：山崎浩司

かつては高知県では冬にしか見られませんでした。最近10年ほどの間に県内でも繁殖を始め、そのため一年を通して見るできるようになってきました。須崎市では、戸島で繁殖し、神島で越冬しています。新庄川、桐間池などでよく見かけます。

○体長：82 cm

○すんでいる環境：水辺

○見やすい時期：一年中

○見やすい時間帯：日中

○須崎で見やすい場所：市内全域の水辺

鳥類 (ちょうるい)

カンムリカイツブリ (カイツブリ科)



カイツブリの仲間では最も大きい種です。高知県では冬鳥で、11月頃になると浦ノ内湾に十数羽が渡ってきます。白く長い首が青い海に映えて、とてもきれいに見えます。食べものは魚で、頻りに潜水して獲物を追います。

○体長：56 cm ○すんでいる環境：広い水面がある湾や湖、河口など ○見やすい時期：11月～3月
○見やすい時間帯：日中 ○須崎で見やすい場所：浦ノ内湾の坂内周辺

サシバ (タカ科)



春になると東南アジアから日本へ渡ってきて繁殖し、秋になるとまた南へ去っていく夏鳥です。春と秋の渡りのシーズンには、須崎市の上空をたくさんのサシバが渡っていきます。毎年10月の初旬から中旬にかけては、とくに多くのサシバを見ることができます。

○体長：47～51 cm ○すんでいる環境：森林、農耕地 ○見やすい時期：3月、10月
○見やすい時間帯：日中 (午前中) ○須崎で見やすい場所：虚空蔵山山頂

タヌキ (イヌ科)

昔から人の近くにすんでいた動物で、漢字は狸(けものへんに、さと)と書きます。夜行性で、昼間はやぶの中や土の穴、大きな岩のすき間、人が造った溝などで寝ています。夕方から活動をはじめ、朝まで食べものをさがします。食べものは木の実や虫、小動物などさまざまですが、すんでいる場所や季節に合わせて、手に入りやすいものを食べます。人の食べものも大好きで、人からもらえることがわかると、毎晩やってきておねだりするようになります。人の近くにすんでいるためか、車にひかれてしまうタヌキも多くいます。

四国にはタヌキがとて多く、愛媛県、香川県、徳島県ではタヌキを神様として祀っている神社が多くあります。なぜか、高知県にはタヌキの神様はいません。



撮影：谷地森秀二

- 体長 60~65 cm
- すんでいる環境 海の近くから山の上までの林
- 見やすい時期 一年中
- 見やすい時間帯 夜間
- 須崎で見やすい場所 市内全域

キツネ (イヌ科)

キツネもタヌキもイヌの仲間ですが、体つきはかなり違います。体つきが違う理由は、食べものをとる方法に関係しています。タヌキはミミズや木の実、昆虫などをあちこちで拾い集めていますが、キツネは獲物を追いかけて捕まえます。そのため、キツネは足が長く、走るときに体のバランスをとりやすいように大きな尻尾をしています。キツネの食べものは、ネズミや小鳥、ヘビやカエルです。ほかにヤマモモやノイチゴなども食べます。

子育てはお父さんとお母さんとが力を合わせておこないます。前の年に生まれたメスの子ギツネ(お姉ちゃんギツネ)が、次の年生まれるの弟や妹たちの世話を手伝うときもあります。



撮影：谷地森秀二

- 体長 100~120 cm
- すんでいる環境 海の近くから山の上までの林
- 見やすい時期 一年中
- 見やすい時間帯 夜間
- 須崎で見やすい場所 横浪半島、安和地区、吾桑地区、下分地区

アナグマ（イタチ科）

がっちりした体つきからタヌキとまちがえられることもありますが、アナグマはイタチの仲間です。何でも食べる雑食性で、とくにミミズが好きなようです。高知県にいる大きなミミズ、カンタロウ（シーボルトミミズ）はアナグマの好物の一つです。

前足にがんじょうな爪が生えていて、穴掘りが得意で、メスは地面にトンネルを掘って巣穴をつくります。子育てはお母さんだけが行い、ササの葉などの植物の葉っぱを子どもたちの布団用に巣穴に持ちこみます。天気の良い日は巣穴の入口に広げて布団を干します。アナグマのお母さんはきれい好きで、トイレは巣穴の出入り口近くにつくって、中が汚れないようにします。



撮影：谷地森秀二

- 体長 60～66 cm
- すんでいる環境 海の近くから山の上までの林
- 見やすい時期 一年中
- 見やすい時間帯 夜間
- 須崎で見やすい場所 市内全域

イタチ（イタチ科）

ほっそりとした体つきの、水辺のハンターです。カエルや魚、ヘビ、小鳥などを捕まえて食べますが、季節によっては、ノイチゴやアケビなども食べます。自分の存在を仲間に知らせるために、石や倒れた木の上などの目立つところに糞をします。その糞をよく見ると、小さな骨や種などが入っていて、食べたものを調べることができます。

最近では、人が外国から持ちこんだチョウセンイタチに生活の場を奪われてきています。チョウセンイタチの方が少し大きく、一度に生まれる子どもの数が多いことが原因のようです。須崎市でもチョウセンイタチが見つかっていて、これから2種類のイタチがどのような関係になっていくのか、興味深いです。



撮影：谷地森秀二

- 体長 23～50 cm (オスはメスよりも、1.5倍くらい大きい)
- すんでいる環境 海の近くから、山の上までの水辺や林
- 見やすい時期 一年中
- 見やすい時間帯 夜間
- 須崎で見やすい場所 横浪半島、野見地区、押岡地区ほか

ハクビシン（ジャコウネコ科）

ハクビシンは「白鼻心」と書きます。読んで字のごとく、鼻からおでこにかけてはっきりとした白い線があり、とても目立ちます。尻尾が長いことから、高知県ではカワウソと間違われたこともあります。

もともと日本にいた動物ではなく、外国（東アジアに広くすんでいます）から連れてこられた外来生物です。

夜行性で、昼間は木の洞や大きな岩の隙間、空家の屋根裏などで眠ります。木の実や昆虫、小動物などを食べますが、とくに果物が大好きです。ミカンやビワ、柿などを好んでよく食べるため、農家からは嫌われています。

子どもは初夏から秋にかけて一度に4~5頭生まれます。子育てはお母さんだけがします。



撮影：谷地森秀二

- 体長 100~110 cm
- すんでいる環境 海の近くから山の上までの林
- 見やすい時期 一年中
- 見やすい時間帯 一年中
- 見やすい時間帯 夜間
- 須崎で見やすい場所 市内全域

ニホンノウサギ（ウサギ科）

東北地方や北陸地方などの雪がたくさん積もる地方のニホンノウサギは、冬になると体の毛が白く変わりますが、西国にすむニホンノウサギは一年中茶色のままです。

昼間はやぶや林の中でじっとして、夜になると活動を始めます。草食で、とくにイネ科植物が大好きです。道路沿いに生えている植物を食べに出てきて、車にひかれてしまうことがあります。

子ウサギは生まれた時から毛が生えていて、目も開いています。お母さんウサギは、産んだ子ウサギをやぶの中に隠して普段は一緒にいません。暗くなるとお乳をあげるために時々やってきます。子ウサギは自分で草を食べられるようになると、勝手に動きまわり、お母さんウサギから離れていきます。



撮影：谷地森秀二

- 体長 45~60 cm
- すんでいる環境 海の近くから山の上までの林
- 見やすい時期 一年中
- 見やすい時間帯 一年中
- 見やすい時間帯 夜間
- 須崎で見やすい場所 市内全域

ムササビ（リス科）

高知県ではムササビがすんでいるところがたくさん見つかっていて、山の中だけではなく人家の近くや神社などにもすんでいます。

夕方から活動をはじめて、木の葉や花、実や種などを食べます。ほとんど地面には下りずにくらし、手足の間にある皮膜を広げて木から木へ滑空して移動します。

頻繁に大きな声で鳴いて、まわりにいる仲間自分がいることを知らせます。いろいろな声を出しますが、はじめてその声を聞いた人はムササビの声とは思わないようです。

子どもは春と秋に生まれ、子育てはお母さんだけがします。お母さんから食べものや飛び方を教わりながらくらし、1年くらいで大人になり、子どもを産めるようになります。



撮影：谷地森秀二

○体長

66～80 cm

○すんでいる環境

海の近くから山の上までの太い木がある林

○見やすい時期

一年中

○見やすい時間帯

夜間

○須崎で見やすい場所

市内全域

ヤマネ（ヤマネ科）

日本にしかない動物（固有種）で、国の天然記念物に指定されています。高知県では絶滅が心配されていて、絶滅危惧Ⅱ類に指定されています。

夜行性で、森の中でくらし、ほとんど地面に下りません。食べものは小さな昆虫、花、小鳥の卵なども食べます。

冬になると、体を丸めて冬眠します。その姿が繭のように見えることから、「繭ネズミ」と呼ぶ地方もあります。冬眠している間は体温を下げ、さわってもほとんど反応しないので、まるで死んでいるようです。

須崎市では上分地区で見つかっています。見つかった場所の標高は約20mで、このくらい低い標高でヤマネが確認された例は全国でもまれです。



撮影：谷地森秀二

○体長

10～15 cm

○すんでいる環境

海の近くから山の上までの太い木がある林

○見やすい時期

春から秋

○見やすい時間帯

夜間

○須崎で見やすい場所

上分地区

イノシシ（イノシシ科）

田んぼや畑の農作物を食べ荒らして被害を出したり、逆にお肉として人に食べられたり、高知県では最も人とかわりのある動物のひとつです。本州、四国、九州にすんでいます。脚が短いために雪には弱く、東北や北陸地方などの雪が深い地域にはいません。四国は温暖なために海岸近くの人里から、標高1,500m以上の高い山までの広い範囲にくらしています。

日中はやぶや林の中で休み、夕方から翌朝まで食べものを探して行動します。丈夫な鼻を使って地面を掘り起こし、木の実や昆虫、小動物など何でも食べます。

とても臆病で警戒心が強い反面、安全だとわかると大胆になり、人里にあらわれて田んぼや芋畑を荒らします。



撮影：谷地森秀二

- 体長 110～150 cm
- すんでいる環境 海の近くから山の上までの林
- 見やすい時期 一年中
- 見やすい時間帯 夜間
- 須崎で見やすい場所 市内全域

ニホンジカ（シカ科）

オスには立派な角がありますが、メスにはありません。オスの角は、年に一度、春に生え変わります。体の模様が夏と冬では変わって、夏は赤褐色に白い斑の美しい鹿の子模様、冬は全身こげ茶色の姿に変わります。写真は夏毛のメスジカで、四万十市西土佐で撮影されたものです。

四国では、近年ニホンジカが増えてきており、須崎市でも平成21年ごろからニホンジカが姿を現すようになってきました。増えたニホンジカたちは、森の植物を食べつくしてしまったり、畑や水田に出てきて、農作物へ被害を出したりするようになってきています。



撮影：谷地森秀二

- 体長 90～150 cm
- すんでいる環境 海の近くから山の上までの林
- 見やすい時期 一年中
- 見やすい時間帯 夜間
- 須崎で見やすい場所 安和地区、依包地区

キクガシラコウモリ（キクガシラコウモリ科）

鼻のまわりに肉ひだが発達していて、植物の菊の花のように見えることから「菊頭コウモリ」という名前になっています。洞窟をすみかとしています。防空壕跡や、野菜をしまっておくために人が掘った岩穴、廃屋などでも見つかります。昼間はそのような場所で寝ていて、夕方になると食べものを探しに出かけます。食べものは空を飛ぶ昆虫で、蚊や蛾、コガネムシなどです。キクガシラコウモリの翼は幅が広く、林の中でも木をすり抜けて飛びながら昆虫を探すことができます。多くのコウモリは口から超音波を出しますが、キクガシラコウモリは鼻から出します。

須崎市には7月になると、子どもを産むメスが集まる洞窟があります。オスや、まだ子どもを産めない若いメスは別の洞窟にあつまって暮らします。



撮影：谷地森秀二

- 体長 6～8 cm
- すんでいる環境 海の近くから山の上までの林
- 見やすい時期 一年中
- 見やすい時間帯 夜間
- 須崎で見やすい場所 新荘川流域、多ノ郷地区、横浪半島

アブラコウモリ（ヒナコウモリ科）

住宅地や市街地などで夕方見かけるのが、このコウモリです。人家が無い山の中などでは見つかありません。さかんに翼をはばたかせて、方向転換を繰り返して飛び続けるのが特徴です。よく食べるのは、蚊や蛾などで、一晩に食べる量はとても多いです。もしコウモリがいなくなったら、蚊や蛾が大量発生してしまうことでしょう。コウモリが食べるものは昆虫ですが、コウモリは鳥に食べられます。アブラコウモリをよく襲うのはフクロウの仲間のアオバズクとタカの仲間のチョウゲンボウです。

寒くなり、空を飛ぶ昆虫がいなくなるとアブラコウモリたちも姿を見せなくなります。コウモリたちは屋根裏や雨戸の戸袋などで冬眠をして春を待ちます。



撮影：谷地森秀二

- 体長 7～8 cm
- すんでいる環境 人がすんでいる場所の周辺
- 見やすい時期 春から秋
- 見やすい時間帯 夕方から夜間
- 須崎で見やすい場所 栄町や西町などの市街地、桐間池や糺池などの水辺

甲殻類(こうかくるい)

シオマネキ(スナガニ科)

オスは片方のハサミが甲羅と同じくらいまで大きくなるのが特徴で、この大きなハサミを振るウェーピングと呼ばれる求愛行動をおこないます。シオマネキという名前は、この動作が「潮を招いている」ように見えることからつけられたものです。

食物は有機物や藻類などで、小さなハサミで砂泥をつまんで口に入れ、中に含まれる餌だけをこしとって食べます。天敵はサギ、シギ、カラスなどの鳥類や沿岸性の魚類です。敵を発見すると素早く巣穴に逃げこみます。

環境省は絶滅危惧Ⅱ類に、高知県は絶滅危惧ⅠA類に指定しています。また、トビハゼと同じで、高知県希少野生動植物にも指定されています。県内で確認されている生息地は、須崎湾を含め10ヶ所ほどです。



撮影：谷地森秀二

- 甲幅 3.5 cm
- すんでいる環境 河口域の砂泥地
- 見やすい時期 4月～10月
- 見やすい時間帯 干潮前1時間～干潮
- 須崎で見やすい場所 桜川河口

ハクセンシオマネキ(スナガニ科)

シオマネキの半分くらいの大きさで、シオマネキよりも砂地を好みます。

須崎市では、浦ノ内湾の堂ノ浦と須崎湾の奥部、桜川・押岡川の合流点に生息しています。まれに浦ノ内湾の灰方川の河口にも出現しますが、定住はしていないようです。他には、高知市の浦戸湾、黒潮町の蛸瀬川、四万十市の竹島川、宿毛湾の奥部などでしか見られません。

環境省は2006年に、ハクセンシオマネキをそれまでの準絶滅危惧種から絶滅危惧Ⅱ類に変更しました。高知県では現在、準絶滅危惧種に指定されていますが、全国的に見て希少な種ではないかという指摘が1996年にすでになされていますから、高知県でも見直しが必要かもしれません。



撮影：町田吉彦

- 甲幅 1.5～2 cm
- すんでいる環境 河口域の砂泥地
- 見やすい時期 4月～10月
- 見やすい時間帯 干潮前1時間～干潮
- 須崎で見やすい場所 桜川河口

甲殻類(こうかくるい)

マメコブシガニ(コブシガニ科)

高知県の絶滅危惧Ⅱ類に指定されています。富栄養化し、汚れた泥地に好んで生息しています。また、このカニ捕獲後には歩くことができます。

絶滅危惧Ⅱ類に指定された当時は、県内では高知市の浦戸湾、黒潮町の蛸瀬川、土佐清水市の加久見川に生息するとされていました。その後、浦戸湾で再確認されるとともに、須崎湾が新しい生息地として報告されました。さらに、横浪半島沿岸の中央部から奥部にかけての6地点でも確認され、浦ノ内湾に広く生息することが明らかになりました。

写真は浦ノ内湾の須ノ浦で撮影した交尾中のマメコブシガニですが、このようなシーンは滅多に見ることができません。



撮影：町田吉彦

- 甲幅 1.5 cm
- すんでいる環境 河口域の砂泥地
- 見やすい時期 4月～10月
- 見やすい時間帯 干潮前1時間～干潮
- 須崎で見やすい場所 桜川河口、浦ノ内湾

チゴガニ(スナガニ科)

仙台湾以南の本州太平洋岸、四国、九州、南西諸島、朝鮮半島南部の沿岸にすんでいます。集団で干潟に巣穴を掘って生活しています。潮が引くと巣穴から出てきては泥をハサミですくい、その中の食べものを口でこしとって食べます。食べたあとの泥は団子状に丸めます。これを砂団子といいます。行動範囲は巣穴のまわり30cm程度で、砂団子は巣穴を中心に広がります。大きな生きものが近寄ると素早く巣穴に逃げ込みますが、しばらくすると用心深くまわりをうかがいながら出てきます。

オスは両方のハサミを上下するウェービング行動をします。まわりの仲間に影響されるらしく、たくさんいる場所ではあちこちで一斉に白いハサミを振るようすが見られます。白いハサミが光を反射して、とてもきれいに見えます。



撮影：谷地森秀二

- 甲幅 1 cm
- すんでいる環境 河口域の砂泥地
- 見やすい時期 4月～9月
- 見やすい時間帯 干潮前1時間～干潮
- 須崎で見やすい場所 桜川河口、浦ノ内湾

甲殻類（こうかくるい）

クロベンケイガニ（ベンケイガニ科）

西太平洋・インド洋の熱帯から温帯にかけての沿岸に広く生息しています。日本では男鹿半島と房総半島以南で見られます。

海に近い川辺の河原や石垣、森林、草むらなどで見られます。外敵から逃げる時などは水中に逃げこむことが多いです。

繁殖期は夏で、抱卵したメスが海岸に集まり、大潮の満潮時に卵を海に放ちます。

雑食性で、動物の死骸、小動物、植物など何でも食べます。

須崎市では、新莊川河口域、浦ノ内湾や須崎湾の奥部の海岸に近い場所で、草むらや身を隠せる岩やコンクリートのすき間がある場所などで見かけます。また、田んぼの水路などでもよく見つかります。



撮影：谷地森秀二

- 甲幅 3~4 cm
- すんでいる環境 内湾の沿岸域、河口域
- 見やすい時期 4月~9月
- 見やすい時間帯 一日中
- 須崎で見やすい場所 海岸近くの水田や水路

アシハラガニ（ベンケイガニ科）

内湾の海岸や河口の湿地に生息しています。砂泥に直径 3-4cm、深さ 40cm ほどの巣穴を掘って生活します。とくにアシ（ヨシともいう）が生育している泥地を好みます。

雑食性で、おもに植物質を食べますが、捨てられた生ごみを食べたり、ときには他のカニを襲ったりすることもあります。

天敵はシギやサギなどの鳥類です。敵が来ると巣穴に逃げ込むか、ハサミ脚を振りあげていかくします。また、炎天下の干潟の表面でじっとして動かないこともあります。

押岡川と桜川の合流する干潟にはこのカニがたくさんいて、とても観察しやすい場所です。



撮影：谷地森秀二

- 甲幅 3 cm
- すんでいる環境 内湾の沿岸域、河口域
- 見やすい時期 4月~9月
- 見やすい時間帯 一日中
- 須崎で見やすい場所 桜川河口、浦ノ内湾

甲殻類（こうかくるい）

サワガニ（サワガニ科）

川の中流から上流で生活しているカニです。川の下流でも支流（小さな川）に行けば見ることができますが、海水がとどく場所にはいません。世界で日本にだけいます。

あざやかな朱色のカニもいますが青白いカニもいて、色はさまざまです。色は遺伝的に決まっています。同じ地域のカニはよく似た色をしています。暖かい季節にはよく見ることができますが、冬になると岩かげや石の下などにもぐって冬眠します。

お母さんガニは、心化するまで卵をお腹に抱えます。子ガニは卵の中で変態し、心化した時はまるで親ガニのミニチュアのように産まれた後も、しばらくのあいだはお母さんガニのお腹に抱かれて保護されます。



撮影：谷地森秀二

- 甲幅
2～3 cm
- すんでいる環境
川の上流から下流（海水が入るところにはいない）
- 見やすい時期
3月～11月
- 見やすい時間帯
一日中
- 須崎で見やすい場所
淡水のあるほとんどの場所

テナガエビ（テナガエビ科）

朝鮮半島南部、中国北部沿岸、台湾、本州、四国、九州に生息しています。

オスはハサミ脚が長く、体長の1.5倍くらいあります。ミナミテナガエビとよく似ていますが、頭胸部の模様の線が細くて曲がり強いこと、前2本の線に白い縁がない（ミナミテナガエビにはある）ことなどで見分けることができます。

夜行性のため、暗くなってからの方が見つけやすいですが、昼間でも大きな石が積み重なっている場所で見つけられます。石と石の隙間をのぞくと、多くのテナガエビがじっと隠れているのを見ることができます。

食べものは、小魚、魚の死骸、仲間のテナガエビや他のエビ、ミミズ、藻類などです。



撮影：町田吉彦

- 体長
10 cm
- すんでいる環境
河川
- 見やすい時期
4月～10月
- 見やすい時間帯
夜間
- 須崎で見やすい場所
新庄川流域

甲殻類(こうかくるい)

ミナミテナガエビ(テナガエビ科)

ミナミテナガエビの生息地はテナガエビより南にかたよっていて、神奈川県から南に生息しています。また、海外では台湾にも生息しています。

新莊川を含む高知県内の多くの川にすんでいます。移動する力があまり強くなく、中流より上にはほとんど遡上しません。

ミナミテナガエビのハサミ脚はテナガエビより太く、長さは短くなっています。頭胸部に黒い「m」字型の模様があるのも特徴のひとつです。テナガエビの仲間は食用になりますが、十分に熟を加えることが必要です。

石の隙間や水草の茂みなどにいるため、川岸がコンクリートで固められると、テナガエビの仲間のすむ場所がなくなってしまいます。



撮影：町田吉彦

- 体長 10 cm
- すんでいる環境 河川
- 見やすい時期 4月～10月
- 見やすい時間帯 夜間
- 須崎で見やすい場所 新莊川流域、桜川、押岡川

ヒラテナガエビ(テナガエビ科)

高知県には3種のテナガエビの仲間がすんでいます。ヒラテナガエビはその中で一番小さい種です。ただし、小さいながら川を遡上する力は強く、ダムなどがなければ川の上流でも見かけることがあります。

一般的にテナガエビの仲間のオスはハサミ脚が長くなりますが、ヒラテナガエビは他の種ほど長くなりません。また、ハサミ脚の断面がだ円形をしていることが特徴で、和名の由来となっています。

エビやカニの仲間は頭と胸がひとつになっており、ヒラテナガエビでは、ここにたくさんの細かい縞模様があります。

なお、ヤマトテナガエビは本種の別称です。



撮影：町田吉彦

- 体長 8 cm
- すんでいる環境 河川
- 見やすい時期 4月～10月
- 見やすい時間帯 夜間
- 須崎で見やすい場所 新莊川流域

10月^{がつ}の市場^{いちば}で見られるものを^{あつ}集めました。

撮影：町田^{まちだ}吉彦^{よしひこ}



ヒラソウダ



マルソウダ



ブリ

須崎魚市場の魚貝類 (すさきうおいちばのぎょかいりい)



アカカマス



ボラ



ウルメイワシ



キビナゴ



カタクチイワシ



クサヤモロ



マサバ



キントキダイ



ホウボウ



ツバクロエイ

須崎魚市場の魚貝類 (すさきうおいちばのぎょかいりい)



カツオ



ハガツオ



キハダ



クロマグロ



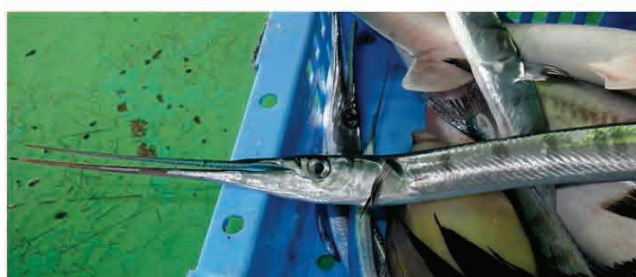
イケカツオ



シイラ



タチウオ



ハマダツ



ハモ



クロウシノシタ

須崎魚市場の魚貝類 (すさきうおいちばのぎょかいりい)



カワハギ



イボダイ



アイゴ



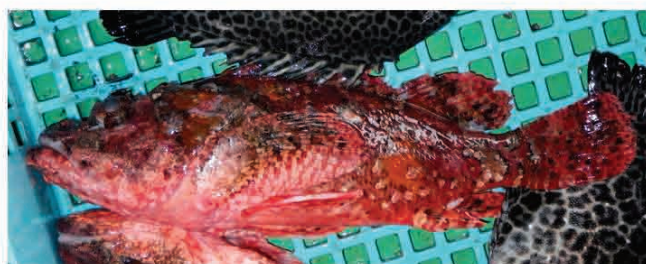
カイワリ



タカノハダイ



コロダイ



オニカサゴ



カサゴ



キリンミノ



ミノカサゴ

須崎魚市場の魚貝類 (すさきうおいちばのぎょかいりい)



ハマフエフキ



ニザダイ



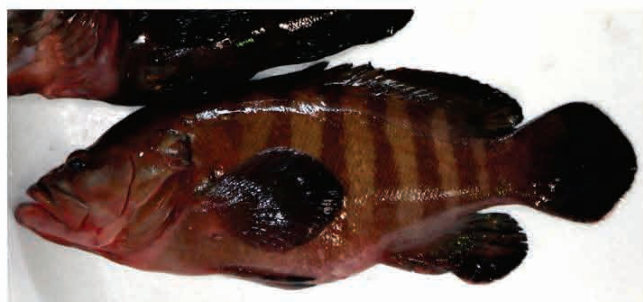
ツムブリ



メジナ



イスズミ



ヤミハタ



クロホシフエダイ



ハウセキハタ



スジアラ

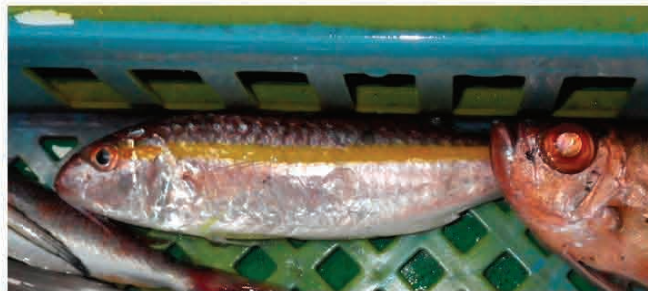


メイチダイ

須崎魚市場の魚貝類 (すさきうおいちばのぎょかいりい)



ヒメジ



キスジヒメジ



オキナヒメジ



ヒブダイ (オス)



ブダイ (メス)



ブダイ (オス)



イラ



アカヤガラ



リュウキュウヨロイアジ



ロウニンアジ

須崎魚市場の魚貝類 (すさきうおいちばのぎょかいりい)



ツバメウオ



ワニエソ



マエソ



ネンブツダイ



シロシュモクザメ



トガリザメ



ホコサキ



ウツボ



イシガキダイ

須崎魚市場の魚貝類 (すさきうおいちばのぎょかいりい)



イトヨリダイ



チダイ



クロダイ



ヘダイ



マダイ



シマアジ



マアジ



メアジ



ギンガメアジ



オキアジ

須崎魚市場の魚貝類（すさきうおいちばのぎょかいりい）



シマイシガニ



ジャノメガザミ



ガザミ

台湾ガザミのメスとよく似ている
（下の青い脚は台湾ガザミ）



ツブワタリシガニ



モンツキシガニ



アカシガニ



台湾ガザミ

オスは青～青紫色が混じる。メスは茶～焦げ茶色。

須崎魚市場の魚貝類（すさきうおいちばのぎょかいりい）



ヨシエビ



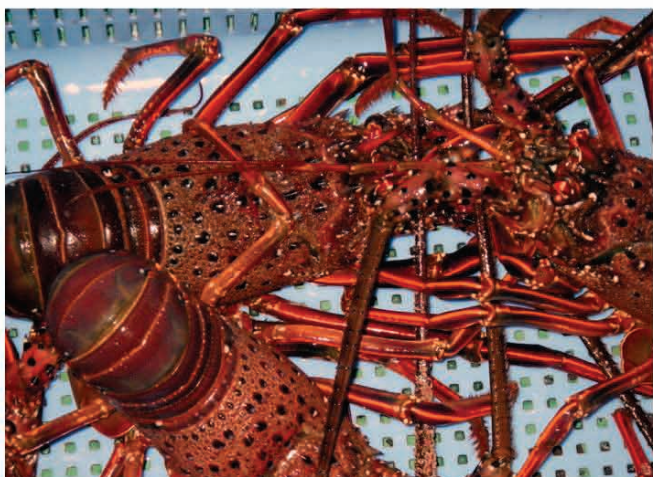
クマエビ



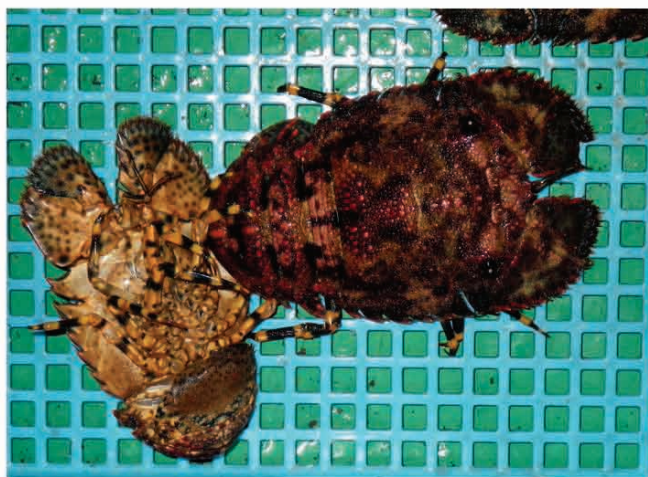
ウシエビ



オキサルエビ



イセエビ



ゾウリエビ



セミアエビ



ヒメコウイカ

須崎魚市場の魚貝類 (すさきうおいちばのぎょかいりい)



アオリイカ



テングニシ



ヒオウギガイ



マガキガイ



ツキヒガイ



ガンゼキボラ

須崎の生きものを観察したいときは・・・

須崎市では、須崎の生きものを観察する野外観察会「すさき野外博物館」を年に4～5回開催しています。この観察会では、生物の研究を行っている方を講師におむかえし、「生物の紹介」や「観察のコツ」、「あると便利な道具」などを紹介しています。参加費は無料（一部費用をいただくものもあります）で、だれでも参加することができます。須崎の生きものを知る始めの一歩として、参加してみませんか？

「すさき野外博物館」の詳細や開催予定などを知りたいときは、須崎市企画課までお問合せください。

【連絡・問合せ先】

須崎市企画課

電話：0889-42-5691

F A X：0889-42-7320

ホームページ：http://www.city.susaki.kochi.jp/



須崎の生きものをもっと詳しく知りたいときは・・・

NPO法人四国自然史科学研究センターへお問い合わせください。

四国自然史科学研究センターは、須崎市下分の新庄公民館内に事務所を構え、須崎市をはじめ四国に生息するさまざまな生物について調査・研究を行っています。得られた結果は、観察会や講座、標本を活用した移動博物館などを通じて紹介しています。

【連絡・問合せ先】

NPO法人四国自然史科学研究センター

住所：〒785-0023 須崎市下分乙470-1

新庄公民館内

電話：0889-40-0840 (FAX兼)

E-Mail：sion@lutra.jp

ホームページ：http://www.lutra.jp/

担当：谷地森秀二



新庄公民館

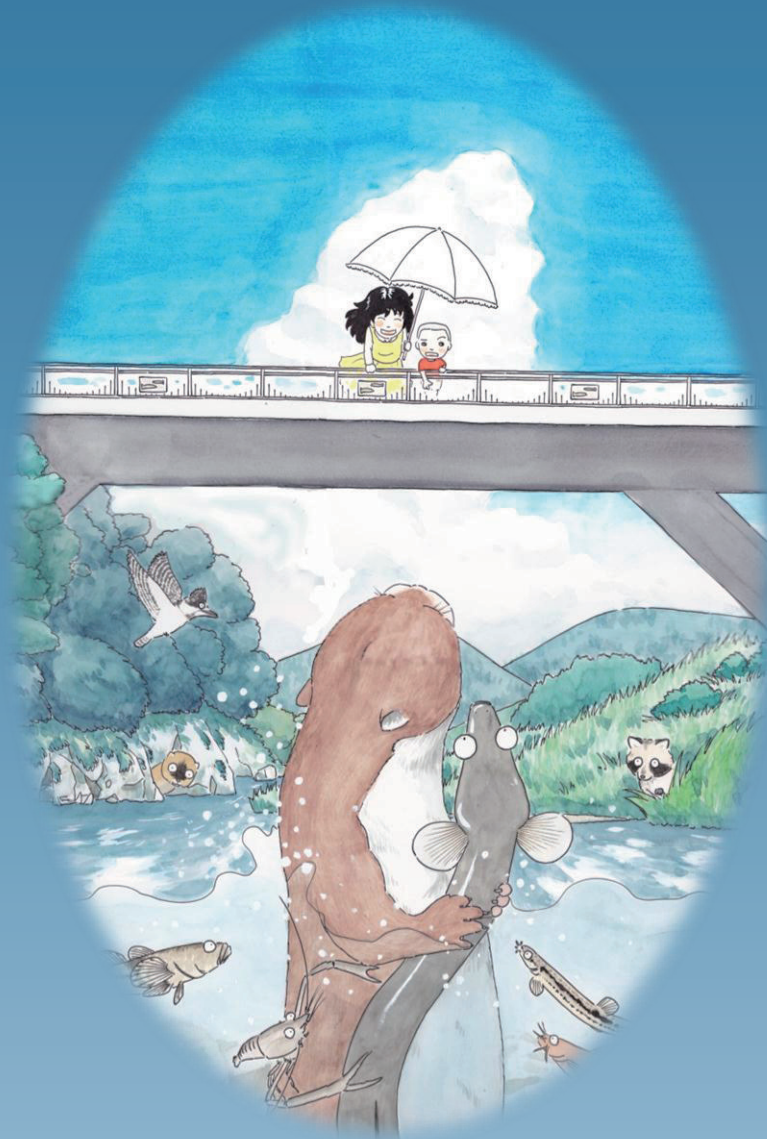
道の駅カワウソの直すさきより、

国道197号線を橋原町方面へ。

新庄川にかかる最初の橋「長竹橋」を渡り、
上流へ200mほど進んだところにあります。

しゅめいさくいん ごじゅうおんじゅん
種名索引 (五十音順)

【ア行】		クサヤモロ	39	ニホンカナヘビ	18	モンツキイシガニ	46
アイゴ	41	クマエビ	47	ニホンジカ	31	【ヤ行】	
アオサギ	25	クロウシノシタ	40	ニホントカゲ	19	ヤマアカガエル	13
アオリイカ	48	クロダイ	45	ニホンノウサギ	29	ヤマカガシ	17
アカイシガニ	46	クロベンケイガニ	35	ニホンヒキガエル	13	ヤマガラ	23
アカカマス	39	クロホシフエダイ	42	ニホンマムシ	18	ヤマネ	9 30
アカザ	11	クロマグロ	40	ニホンヤモリ	19	ヤミハタ	42
アカヤガラ	43	ゲンジボタル	96	ヌマチチブ	10	ヨシエビ	47
アサギマダラ	96	コロダイ	41	ネンブツダイ	44	【ラ行】	
アシハラガニ	35	【サ行】		【ハ行】		ラサキヨロイアジ	43
アナグマ	28	サシバ	26	ハガツオ	40	ロウニンアジ	43
アブラコウモリ	32	サワガニ	36	ハクセンシオマネキ	33	【ワ行】	
アユ	11	シイラ	40	ハクビシン	29	ワニエソ	44
イケカツオ	40	シオマネキ	33	ハマダツ	40		
イシガキダイ	44	シマアジ	45	ハマフエフキ	42		
イスズミ	42	シマイシガニ	46	ハモ	40		
イセエビ	47	シマヘビ	17	ヒオウギガイ	48		
イタチ	28	ジャノメガザミ	46	ヒブダイ	43		
イトヨリダイ	45	シラゲルアオガエル	14	ヒメコウイカ	47		
イノシシ	31	ショウビタキ	24	ヒメジ	43		
イボダイ	41	シロシュモクザメ	44	ヒヨドリ	23		
イラ	43	スジアラ	42	ヒラソウダ	38		
ウシエビ	47	スズメ	22	ヒラテテナガエビ	37		
ウシガエル	15	セミエビ	47	フダイ	43		
ウツボ	44	ソウリエビ	47	フリ	38		
ウルメイワシ	39	【タ行】		ハダイ	45		
オキアジ	45	タイワンガザミ	46	ヘビトンボ	97		
オキサルエビ	47	タカノハダイ	41	ボウスハゼ	99		
オキナヒメジ	43	タカハヤ	12	ホウセキハタ	42		
オニカサゴ	41	タチウオ	40	ホウボウ	39		
【カ行】		タヌキ	27	ホコサキ	44		
カイワリ	41	チゴガニ	34	ボラ	39		
カサゴ	41	チダイ	45	【マ行】			
ガザミ	46	チチブ	10	マアジ	45		
カジカガエル	16	ツキヒガイ	48	マエソ	44		
カタクチイワシ	39	ツバクロエイ	39	マガキガイ	48		
カツオ	40	ツバメウオ	44	マサバ	39		
カワウ	25	ツブワタリイシガニ	46	マダイ	45		
カワセミ	21	ツムブリ	42	マルソウダ	38		
カワハギ	41	テナガエビ	36	マメコブシガニ	34		
カワムツ	12	テングニシ	48	ミサゴ	24		
ガンゼキボラ	48	トガリザメ	44	ミヅツバミ	20		
カンムリカイツブリ	26	トノサマガエル	15	ミナミテナガエビ	37		
キクガシラコウモリ	32	トビハゼ	98	ミノカサゴ	41		
キスジヒメジ	43	ドンコ	99	ミミスハゼ	98		
キセキレイ	21	【ナ行】		ムカシトンボ	97		
キツネ	27	ニザダイ	42	ムクドリ	22		
キハダ	40	ニホンアマガエル	14	ムササビ	30		
キビナゴ	39	ニホンイシガメ	20	メアジ	45		
キリンミノ	41	ニホンイモリ	16	メイチダイ	42		
ギンガメアジ	45			メジナ	42		
キントキダイ	39						



すさき生きものガイドブック

平成24年3月1日発行

【発行】

須崎市企画課

〒785-8601 須崎市山手町1番7号

電話：0889-42-5691

FAX：0889-42-7320

ホームページ：http://www.city.susaki.kochi.jp/

【編集】

特定非営利活動法人四国自然史科学研究センター

〒785-0023 須崎市下分乙470-1 新荘公民館内

電話・FAX：0889-40-0840

ホームページ：http://www.lutra.jp/

【本文】

谷地森秀二・町田吉彦・石川妙子

【イラスト】

松下（宮野）和江

【印刷】

株式会社 フロムタイム エージェンシー